昭和58年度

(第 12 回)

航路標識コース
実施要領

昭和58年7月

国際協力事業団

研修事業部

目　　次

1. コース名等

1) コース名

o 和文：航路標識コース

o 英文：Group Training Course in Aids to Navigation

2) 研修期間

昭和５８年８月２５日～昭和５８年１０月２９日

3) 定　員

１０名

2. コースの目的・背景

1) コースの目的

本コースは，我が国の技術協力計画の一環として日本政府により設けられるもので，我が国の航路標識行政に関する現状を各国の航路標識行政に携わる者に講義・見学を通じて紹介し，また航路標識の保守・運用に関する技術を付与することにより，技術移転を図り，その結果として参加各国と我が国の友好親善を図ることを目的とする。

2) コースの背景

本コースは昭和４７年度に開設され，昭和５７年度で１１回目を迎え，延べ１９か国から115名の研修員を受入れている。

航路標識は国際性が高く，その運用に当たっては，全世界統一した様式で運用されることが望ましい。その観点から，1980 年には国際航路標識協会（ IALA ）において，浮標式の統一が決議され（ IALA 浮標式），各国においても順次 IALA浮標式へ移行することとなった。また，一方では近年における目ざましい科学技術の発展に伴ない，航路標識にも各分野の高度な知識，技術が必要となってきた。

このような情勢から，各国とも航路標識の整備に対する積極的な対応を迫られており，この分野における新技術の導入には極めて熱心である。そ

の結果，本コースに対する各国のニーズは一層高まりつつある。

3. 到達目標

1）コース全体の到達目標

日本の航路標識行政の現状について理解せしめるとともに航路標識の保守・運用に関する基礎的技術について理解せしめる。

2）主要研修課題の到達目標

(1) 航路標識行政

日本の航路標識行政に関する法規，組織，航路標識の保守・運用の概要，航路標識職員の教育制度の概要について理解せしめる。

(2) 航路標識に関する基礎的技術

日本の航路標識に関する基礎的技術について理解せしめる。

4. 研修項目・研修方法

1）研修項目

(1) 講　　義

日本の海上交通，日本の航路標識システム，光波標識理論，浮標概論，電波標識概論，光波標識機器概論，光波標識の建設計画，工事

(2) 見　　学

イ．海上保安庁関係

海上保安庁灯台部航路標識測定船「つしま」，海上保安学校

第六管区海上保安本部灯台部

第七管区海上保安本部関門航路標識事務所

海上保安庁電波標識課オメガセンターオメガ局運用室

第七管区海上保安本部上県デッカ航路標識事務所

第三管区海上保安本部東京湾海上交通センター

海上保安試験研究センター

ロ. 関連企業関係（アイウエオ順）

岳洋燈機工業㈱，シャープ㈱，㈱ゼニライトブイ，日本機械製鎖㈱，日本光機工業㈱，日本電気㈱，プロドライト工業㈱，松下電池工業㈱，㈱緑星社

2）研修方法

(1) 使用言語

本コースは英語で行う。ただし必要のうど，国際協力事業団研修監理員の通訳を介して行なう。

(2) 講　義

本コースの講義は，英語で1日4時間を1単位として実施し，1～2単位の範囲内で行う。講師は，所定のテキスト，あるいはVTR・スライド等の視聴覚，機材を利用して講義を行う。

(3) 見　学

研修員の理解を深めるために，各地の航路標識関連施設等を見学する。

(4) カントリーレポート発表

研修員が自己の所属する組織の活動内容及び自国の航路標識の現況・問題点につき発表し，意見交換を行う。

5. 研修員参加資格

1）General Information（G.I）で示した研修員の資格要件は，下記の通りである。

(1) 要請国政府によって推せんされた者であること。

(2) 高校卒業，又はそれと同等の物理学に関する知識を有すること。

(3) 航路標識業務の分野に従事する中堅的職員であること。

(4) 45才以下の者であること。

(5) 会話，読み書き共十分な英語力を有する者であること。

(6) 本研修コースに参加する上で，肉体的・精神的に健全であり，女性については，妊娠していない者であること。

2）人選方法及び選考基準

参加割当国に対して日本大使館等を通じ配布される本コースのG.I.に基づいて相手国政府から提出される要請書（A3フォーム）により，主にG.I.記載の資格要件を選考基準として，国際協力事業団と海上保安庁灯台部が協議し，研修員の人選を行う。

3）割当国，13ケ国

バングラデシュ，ブルネイ，ビルマ，インド，インドネシア，マレイシア，フィリピン，シンガポール，エジプト，イラン，マダガスカル，チリ，パナマ

4）応募状況：10ケ国，17名

インド，インドネシア，マレイシア，フィリピン(2)，シンガポール，エジプト(4)，イラン(2)，マダガスカル(3)，チリ，パナマ

5）本年度参加研修員

インド，インドネシア，マレイシア，フィリピン，シンガポール，エジプト(2)，イラン(2)，チリ，パナマ

6. 研修実施体制

本コースは，海上保安庁灯台部と国際協力事業団との協力により企画運営する。

なお，国際協力事業団は，研修業務の一部を財団法人，日本航路標識協会に委託する。

7. 研修施設

(1) 研修実施場所

東京インターナショナルセンター

（〒160 東京都新宿区市ケ谷本村町42－11 電話267－2311）

(2) 宿泊施設

同　　上

8. 研修教材

(1) Aids To Navigation In Japan

(2) Text For Group Training Course In Navigation Aids

（6分冊）

① Work To Construct Visual Aids To Navigation

② Electronic Navigation Aids

③ Volume of Machineries(part 1)

④ Volume of Machineries(part 2)

⑤ Fundamentals

⑥ Design To Light Beacon

9. 研修付帯プログラム

国際協力事業団は，昭和58年8月25日を参加研修員の来日指定日とし，その翌日東京インターナショナルセンターにおいて事業団主催の来日事務諸手続，及び滞在費等の支給に係る集合ブリーフィングを実施するとともに，来日後翌一週間（同年9月5日から9月9日まで）は，研修員の日本での滞在生活に資するため，日本事情の紹介を中心として別紙プログラムの通り一般オリエンテーションを実施する。

10. 研修の評価

本コースの研修の成果を把握，かつ研修員のコース内容に対する理解の程度を評価し，その結果を今後の本研修コースの改善に資することを目的として，以下の通り，評価会等を行う。

1) 評価会を開催し，研修員より感想，意見を聴取する。

2) ファイナルレポート及びエバリュエーションシートを研修員に提出させる。

3) 研修終了後しかるべき時期に，海上保安庁灯台部，国際協力事業団及び日本航路標識協会の関係者が一同に会し，反省会を開催する。

11. 付属資料

1) 研修日程
2) 講師一覧
3) 受入実績
4) オリエンテーションプログラム

} 別　添

昭和58年度　航路標識実習研修日程（案）

月	日	曜日	研修内容	場所	時間	備考
8	25	木	来日			
	26	金	Briefing			
	27	土	Free			
	28	㊐	Free			
	29	月	General Orientation	T.I.C		
	30	火	〃	〃		
	31	水	〃	〃		
9	1	木	〃	〃		
	2	金	〃	〃		
	3	土	Free			
	4	㊐	Free			
	5	月	Program Orientation	巡輪宿（6F(B)）		
	6	火	Lec（日本の海上交通）	T.I.C	1000～1600	
	7	水	〃（日本の航路標識システム）	〃	〃	
	8	木	〃（光波標識理論）	〃	〃	
	9	金	〃（　〃　）	〃	〃	
	10	土	Free			

月	日	曜日	研修内容	場所	時間	備考
9	11	㊐	Free			
	12	月	Lec（電波標識概論）	T.I.C	1000～1600	
	13	火	〃（浮標概論）	〃	〃	
	14	水	〃（ 〃 ）	〃	〃	
	15	㊍	Free			
	16	金	Lec（電波標識概論）	MSA会議室	1000～1600	
	17	土	Free			
	18	㊐	Free			
	19	月	Lec Observ（測定船）	航路標識測定船「つしま」	1000～1600	
	20	火	Lec（光波標識機器概論）	T.I.C	〃	
	21	水	〃（光波標識の建設計画，工事）	〃	〃	
	22	木	Workshop	運輸省（6 F(B)）		
	23	㊎	Free			
	24	土	Free			
	25	㊐	Shift（東京 → 舞鶴）			㊍ 舞鶴
	26	月	Observ（海上保安学校）	舞鶴		㊍ 京都
	27	火	Lec Observ（製鋼）	日本機械製鋼		㊍ 大阪
	28	水	〃（空気電池）	松下電池		㊍ 大阪
	29	木	〃（太陽電池）	シャープ		㊍ 大阪

9	30	金	Shift(大阪—倉敷), Lec Observ (浮標)	ゼニライトブイ		倉敷
10	1	土	Free, Shift (倉敷—広島)			広島
	2	日	Free			広島
	3	月	Observ(浮標基地, 設備作業)	大区灯台部		広島
	4	火	Shift (広島—下関) Observ(関門海峡の航路標識)	関門航標所		博多
	5	水	Shift (博多—対馬) Lec Observ (オメガ)	オメガ局運用室		比田勝
	6	木	Lec Observ (ロラン局, デッカ局等)	上対馬		比田勝
	7	金	Shift (対馬—福岡—東京)			
	8	土	Free			
	9	日	Free			
	10	月	Free			
	11	火	Lec Practice (波力発電)	松塩社		
	12	水	Lec Observ (海上交通センター)	横浜市		
	13	木	Lec Practice (管制器, 灯器)	日本光機		
	14	金	〃 (灯器)	岩崎灯器		
	15	土	Free			
	16	日	Free			
	17	月	Lec Practice (灯台監視装置)	日本電気		
	18	火	Lec Observ (光度測定等)	試験研究センター		
	19	水	〃 (FRP灯塔)	プロドライト工業		

月	日	曜日	研修内容	場所	時間	備考
10	20	水	Observ（東京灯標）			
	21	金	個別応答			
	22	土	Free			
	23	日	Free			
	24	月	Report Making			
	25	火	〃 エバ	JICA		
	26	水	Closing Ceremony	TIC講堂		
	27	木	帰国準備			
	28	金	帰国準備			
	29	土	帰　国			

2) 講 師 一 覧

月	日	項 目	氏 名	所属・役職名
9月	6日 (火)	日本の海上交通	桑原康記	鹿児島教育航海訓練所航行指導室補佐官
	7日 (水)	日本の航路標識システム	山本 林	灯台部監理課専門官
	8日 (木)	光波標識理論	下江 旭	〃 主任浮標技術官
	9日 (金)	浮標概論	豊田昭義	〃 浮標技術官
	12日 (月)	電波標識概論	丸谷 恒	〃 主任電波標識技術官
	13日 (火)	光波標識理論	坪内紀幸	〃 工務課浮標室長
	14日 (水)	浮標概論	豊田昭義	〃 浮標技術官
	16日 (金)	電波標識概論	小林正光	〃 主任電波標識技術官
	20日 (火)	光波標識機器概論	真嶋幹雄	〃 灯台技術官
	21日 (水)	光波標識の建設計画，工事	吉田聖次郎	〃 灯台技術官

3）航路標識コース受入実績

国名＼年度	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	計
バングラデシュ								1	1	1	1	4
ブルネイ											1	1
ビルマ						1		1	1	1	1	5
インド						1	1	1	1	1	1	6
インドネシア	5	4	3	3	3	2	1	1	1	2	1	26
マレイシア		1		1		2	1	1	1	1	1	9
フィリピン		1	2	2	2	2	2	1	1	1	1	15
シンガポール			1	1	1	1	3	1	1	1	1	11
エジプト								1	1	1	1	4
イラン						1			1			2
マダガスカル											1	1
チリ									1			1
パナマ								1	1	1	1	4
韓国	5	4	2	2	2	2	1					18
メキシコ		1										1
タイ			1			1						2
リビア				1								1
リベリア								1	1	1		3
コスタリカ										1		1
計	10	11	9	10	8	13	9	10	12	12	11	115

4) 昭和58年度オリエンテーションプログラム

日	時　　間	内　　容
第1日(月)	10:00～12:00	所長挨拶
		JICA事業説明
	13:30～14:15	TIC業務説明
	14:15～16:15	よりよい滞日生活のために
第2日(火)	10:00～12:00	日本の文化史
	13:30～14:30	日本の経済協力
	14:30～16:30	日本の人文地理
第3日(水)	10:00～12:00	日本の経済
	14:00～16:00	日本の行政機構
	16:15～17～15	日本紹介映画の上映
第4日(木)	10:00～12:00	日本の言葉
	14:00～16:00	日本の教育
第3日(金)	9:00～13:00	都内見学(バス)